

| 第25回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨 | |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 平成29年7月3日(月) 15:00~16:30 |
| 場 所 | 長野市役所第二庁舎10階 会議室202 |
| 出席者 | [委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、 中屋委員、西堀委員、西村委員 [事務局(公共施設マネジメント推進課)] 久保田総務部長、望月総務部次長兼公共施設マネジメント推進課長、村上総務部主幹兼公共施設マネジメント推進課長補佐、柳澤公共施設マネジメント推進課課長補佐、小林公共施設マネジメント推進課係長、渡辺公共施設マネジメント推進課係長 [都市整備部] 羽片都市整備部次長兼市街地整備課長、前田市街地整備課長補佐 |
| 議 事 | (1) もんぜんぷら座について (2) 公共施設マネジメント推進について ・個別施設計画の策定に向けて ・市民合意形成に向けた取組 ・芋井地区公共施設整備検討委員会について (3) その他 |

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) もんぜんぷら座について
- (2) 公共施設マネジメント推進について
 - ・個別施設計画の策定に向けて
 - ・市民合意形成に向けた取組
 - ・芋井地区公共施設整備検討委員会について
- (3) その他

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) もんぜんぷら座について

〔資料1について市街地整備課より説明〕

委 員 補強又は解体の費用はどの程度か。

市 街 地 現在、計算をしている。

委 員 仮に、解体して再整備をした場合、出ていくテナントもあると思われるが。

- 市 街 地 今後、テナントへの意見聴取やアンケート調査を実施していく。
- 委 員 建物の底地は誰が持っているのか。
- 市 街 地 2/3程度を市が所有し、1/3程度が借地となっている。
- 委 員 高層棟と低層棟の借地割合は。
- 市 街 地 現時点で把握していない。
- 委 員 使用年数80年を目処に長寿命化するという市の考え方によれば耐震改修となるが、中心市街地の中核となる立地条件から、将来的なまちづくりを考えて有益な方法を考えなければならない。
- 事 務 局 市の長寿命化基本方針では、新耐震の非木造施設の目標使用年数を80年としている。もんぜんぷら座は新耐震以前の建物であるため、建替えも含め、どのような方法で耐震化をしていくか検討していくものである。
- 委 員 ダイエー等が無くなったときの状況をよく知っており、市がもんぜんぷら座として営業してもらい、周辺の住民もとても重宝している。駅と善光寺の中心に位置することから、高層な建物でなくてもよいので建替えてもらうことを要望する。
- 委 員 家賃をもらっているテナントはどれか。
- 市 街 地 1階のTOMATO食品館やその他のテナント、4階の法テラス、職業相談所、長野コンベンションビューロー、5～8階のNTT東日本サービスである。
- 委 員 指定管理者制度は採用していないのか。
- 市 街 地 もんぜんぷら座は市の直営施設で、維持管理を㈱まちづくり長野に委託している。
- 事 務 局 テナントの子ども広場じゃん・けん・ぼんについては、指定管理となっている。
- 委 員 耐震改修と建替えのどちらに重きをおいて考えているか。
- 市 街 地 建物の状況を示しながら、いろいろな意見を聞いて検討していく。
- 委 員 地主の問題を何とかしないと建物をどうするかという話に進めないと思うが、コンパクトで緑のある広場を併設した施設への建替えがよいのでは。今の施設は、とてもリニューアルできる建物ではない。耐震改修ありきではなく、白紙での検討をお願いしたい。
- 市 街 地 建物をどうするかは、使い方も含め様々な意見を聞いて検討していく。
- 委 員 長 お金をかけて今後30年、40年と人気のある集客力のある施設になるかをよく検討し、市民に分かりやすく説明してほしい。
- 委 員 もんぜんぷら座のあり方だけでなく、新田町交差点エリアを一体で考えて欲しい。

市の将来的な位置づけを考えなければいけない時期にきている。

市 街 地 中心市街地活性化基本計画評価検討委員会の部会で検討していきたいと考えている。

(2) 公共施設マネジメント推進について

〔資料2・3について事務局より説明〕

委 員 長 ふるさと財団アドバイザー派遣事業とはなにか。

事 務 局 国の外郭団体である「ふるさと財団」による講師を派遣する事業を活用した研修の開催である。

委 員 ワークショップの開催にあたり、市で素案を出せと言われぬか。

事 務 局 市で提示した案をみてから、ワークショップを開催するか決めたいという地区もある。どの地区も一律には進まないが、工夫をしながら柔軟に対応したい。

委 員 ワークショップは、市が押し付けるものではないし、住民から出た意見で全てを決めるものでもない。ワークショップが交渉の場にならないように、住民と市が一緒になって作り上げるということを分かりやすく説明してもらいたい。

事 務 局 業務委託のねらいもそこにあり、ファシリテーターが中立的な立場でバランスをとりながら進めることが重要と考える。ワークショップでの意見がそのまま実現するというような誤解をまねかないよう充分説明していきたい。

委 員 公共施設の面積を20年で20%縮減しなければ健全で持続可能な行政が維持できないという危機意識を市民は持っているのか。

事 務 局 出前講座などで住民自治協議会の役員には理解してもらっていると思われるが、一般市民の中までは浸透していない。ワークショップは、その啓発活動にもなると考えている。

委 員 広域的なものも合築すれば無駄な投資をせずに更新できるものもあるので、地域の中の施設だけで検討せずに、市の全体を見渡し庁内で調整したうえで進めてほしい。

委 員 同感で、市がランドデザインを先に示し、それを踏まえて地域で使いやすい施設となるような検討を進めるべきである。

事 務 局 ワークショップは地域の施設を検討することが基本。広域施設はご指摘の通り市全体を見て検討しなければならない。

南部図書館は、図書館基本計画において篠ノ井駅周辺のまちづくりの拠点とすることを視野に改築することとなっているため、篠ノ井地区ワークショップで検討することとした。広域的な施設は、各課から考え方の報告をうけて検討を進めていきたい。

【閉 会】